

旧約聖書時代のパレスチナの地図



旧約の街・ガザ

先日、周南の高齢名士の集い、徳山プロバスクラブでガザについて話をする機会をいただいた。

だいた。

今回のイスラエル軍のガザ進攻で、ガザという言葉を新聞やテレビで見聞きするが、多くの人がガザについては詳しくは知らないと言われた。

聖地エルサレムには観光で行った人もあるだろうが、ガザには観光で行くこともなく、名前しか知らないというのでも当然だ。

この巡礼記に載せたので娘に写真をたくさん持ち帰るよう言っておいたが、先日、娘がガザから帰国した。ガザは旧約聖書にも出てくる、四千年の歴史をもつ古い町である。当時、ユダヤ教の神殿のある聖地エルサレムと、古代文明発祥



心理サポートに日本から届けられたボールと人形を持つ子どもたち



契約である。ユダヤ教はユダヤ人だけが神から選ばれた民族で神に救いを求めているのに対し、キリスト教は全人類の救いを求めている。

さて、旧約聖書に出てくるガザの町で有名なのは映画になった「サムソンとデリラ」。ユダヤ民族の怪力サムソンは当時、ガザを中心に住んでいたアラブ系のペリシテ人にとって憎つくき者。サムソンが遊女デリラに気を許し、怪力の秘密を教えたためペリシテ人に捕えられ、目をえぐり取られてガザに連行される。

となったサムソンは神に最後の怪力を願い、ペリシテ人の集会堂の柱にしばられていた時、怪力で柱を倒し、大勢のペリシテ人とともに下敷きになって死んだ。

この話のように、旧約の時代から、虚しい人間の対立をガザの地は見えて来たのである。今回で四回にわたったガザ特集を終わる。（元山口放送取締役ラジオ局長）

の地として栄えたエジプトとを結ぶルートの宿場町で、旧約聖書の「士師記」や「サムエル記」に出てくる。そもそも旧約聖書はユダヤ民族（イスラエル人、ヘブライ人ともいわれる）の信仰、ユダヤ教の言い伝えの書で、ユダヤ教にとってただひとつの聖書である。

これに対しユダヤ教の刷新運動から生まれる。旧約聖書に出てくるアブラハムやモーゼ、新約聖書に出てくるイエスとその弟子たちもみんなユダヤ人である。「約」とは神との契約の「約」で、旧約は神とモーゼの契約、新約は神とイエスの

ちなみにパレスチナとはペリシテ人の地、地中海はペリシテ人の海という意味である。

破壊されたガザにひるがえるパレスチナの旗

